

12月度土曜例会 (2017.12.16)

2017 Year-end Party

戦火の絶えぬ地球ではありますが、日本の大阪の茨木市で、世界の平和を願い人々の繋がりを地道に築くIIN Year-end partyが今年も変わりなく開催されました。

出席者は

IIN会員 : 36名

外国人の客人 : 3名

でした。

右記の式次第に従い、粛々と進行されました。

Year-end Party 2017 式次第

12:30 ~ 会場準備

13:00 Opening

委員長のあいさつ、連絡事項

13:15 Eat and Talk buffet style

13:30 Recitation 英語スピーチ暗唱 有志

Break 10minutes

15:00 Let's sing

15:15 BINGO game

15:30 アンケート記入 Writing comments

15:45 副委員長のあいさつ

16:00 Closing

Clean up

委員長のご挨拶・今後の予定等の話の後



テーブルに並べられた数々の料理に、突進。

親父殿！、その元気、どこから？



and しばしの歓談



and pleasant talk



*IIN annual year-end party
is very interesting for me.
It helps building networking
between Japanese citizen and foreign people.
This is a good program for reunion.
I like this event.
The agenda is nice.*



*Thank you, IIN members !
Today I enjoyed year-end party.
Eveybody is very kind, friendly and welcoming.
I wish you all happiness and good luck in 2018
and always.*

*戴いたコメントにはアラビア語で書いた部分がありました。
残念なことに、表示できません。
意味は、「ありがとうございます」でした。*



*First, let me thank you for inviting me today.
It has been an interesting party for me.
The food were good and the company too.
I do not have any complaints that I can think of.*

出席者の自己紹介が始まりました。

各自、30秒の持ち時間の中で、今年、体験した事、来年への抱負 等々を語られました。タイムキーパーが鳴らす時間切れのベルにもめげず、熱く語ってくれたのです。

ここだけの話、

タイムキーパーの方って、心を鬼にしなくてはなりません。

そこの所を、なにとぞ、ご理解願います。普段は、とても優しい方、．．． 多分。

- ミネアポリスへの訪問団に参加した事
- ミネアポリスから訪問団を迎えた事
- 公開例会に「杉原 千畝」の縁者を迎えた事
- IINから戴く、幸せ
- 「今年は訪ねたミネアポリスの方々と茨木でまた会えて楽しい時をもてた」
- 「IINにできるだけ長くいるつもりです」
- 「今年もIINで価値ある情報をいっぱい、もらった。I love IIN very much.」
- 「英検準一級に合格するまで死なないでがんばります」
- 「素敵なカフェをめぐるって一人で楽しみたい」
- 「時々、さぼってますが、来年はもっとまじめに来ます」
- 「妻の都合で日本にいます。料理が好き。日本の山も大好きであちこち登りたい」
- 「最近、ニューヨークに行ったが、日本の良さを改めて知った」
- 『私のモットーはtake it easy, let it be, happy go luckyの3つです』
- 「最近、引っ越したがそのマンションの住人の平均年齢は85歳。
自分がずいぶん、若返った気がする毎日です」
- 「2年前から阪大の留学生として勉強しています。京都の嵐山、清水寺が大好き。
今日は招待していただいてありがとう」
- 「マラソンで2時間を切るタイムを出せた！」
- 「IINに入って3年になる。もう3年楽しみ、後、全国をスケッチ旅行したい。」 等々。

皆さんがそれぞれに、過ぎし一年に思いを馳せ、来たる年に期する事を感じ取れました。

恒例のrecitationが始まりました。

(茨木市で開催された英語スピーチ大会・中学生の部の課題を暗唱します。)

The wisest man in the world

Long ago there lived a king in the country of Israel,

His name was Solomon,

He was so wise that he could even speak the language of every insects.

One day a little bee flew into the king's room,

The bee was so scared to fly away when the King came up to it,

" Oh, King, forgive me, please, " it said,

" Please let me go ! I can work for you some day. "

King Solomon smiled and opened the curtains,

" You may go, I want nothing in return from a little bee like you. "

Through the curtains, The King saw a great caravan,

At the head of the caravan,

The proud and beautiful Queen of Sheva was riding,

" Be careful of the Queen Sheva, King ! " a servant said,

" She's jealous of you because you loved by the people. "

" You worried too much. " answered the King,

" I'm wise enough to take care of myself. "

During the next few days,

The Queen Tried hard to show that The King Solomon was not really wise.

She asked him a lot of difficult Questions,

But he answered all of them.

One night the Queen said to her servants,

" Tomorrow will be our last chance. "

The King has invited many people to a dinner,

Why don't we make a fool of him before a great number of people ? "

The Queen told one of her servants to pick a flower from King's garden,

Then she ordered her artists to make ninety-nine false flowers just like it.

At the party the Queen said to the King,

" My artists wish you to judge their work,

among these one hundred flowers only one was taken from your garden,

The others are false flowers made by my artists,

Won't you pick out your own flower ? "

The King tried, but all the flowers looked the same.

Then someone called his name,

It was a bee hiding under the table,

" I'm here to help you, " it said,

" The real flower has honey inside, Just watch me. "

After the party, King Solomon thanked the bee and said to himself,

" I've been too proud, We all help from others sometime,

And even the smallest one can give it. "

今年は、4名の参加がありました（男性2名、女性2名）



初参加にも関わらず、トップバッターは、筆者

- 途中で文の順番が狂い
- 頭の中は真っ白
- 背中には汗
- 死ぬかと思いました。

この思いを皆さんに分けてあげたく存じます。

他の方は、落ち着いたもので、
上々の出来でありました。

伊達に年を重ねていません。



その迫力に負けます。



この落ち着き振り
憎たらしいと思いませんか？



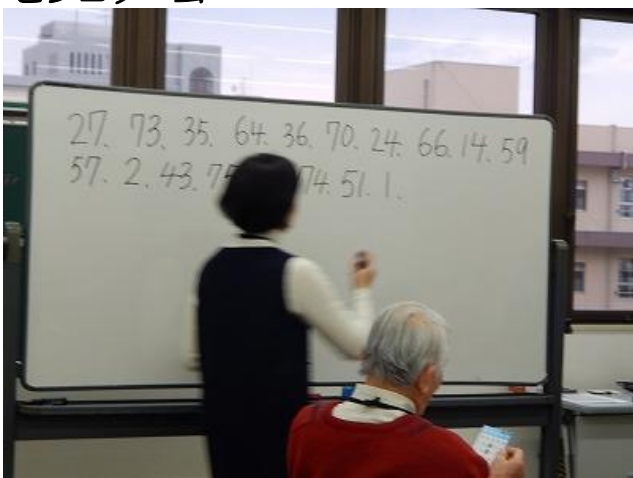
歌 <今年の歌は「ふるさと」と「花」 ピアノ伴奏付き >



英語の歌詞では、ちと、難しい



ビンゴゲーム



他愛のない遊びですが、
いざ、始めると、結構、熱中します。

期待する数字が一つもない参加者は、
途中でカードを変えてとか言って、
だだをこねる人も !

沢山の景品 !!!



get!



と、このように盛会でした。

最後に、それぞれの席から戴いた、コメントを掲載します。

あるテーブルからのコメント

- 有意義な1日でした。今年は外国人ゲストもいて楽しかったです。できれば、外国人ゲストがもっと多いほうが良いです。
- 初めての参加でしたが楽しかったです。内容が盛りだくさんで良かったと思います。通常の例会代わりに、もっと英語があったほうが嬉しいです。
- 久しぶりに出席しました。
IINの活動が35周年続いてきたことに皆さんの熱い気持ちが結集していると改めて感じました。今日は来て良かったです。

そして、あるテーブルからのコメント

「健康増進に関する話をしましょう。皆さんはどんなことをされていますか」という問いに

- 「毎日、自宅近くでウォーキングを30分ほどやっている」
- 「私の場合、一人でのウォーキングは続かない。仲間を作ってやりたい」
- 「あるホテルのジムで長年、がんばってきたが、最近、高齢者の利用が減ってきて、近く閉鎖になることが決まり困っている」
- 「公民館など市の施設などでは高齢者のための体操教室などがあり、安い値段でやっている」
- 「私はNHKのテレビで放送しているラジオ体操のDVDを買って毎日やっている。『みんなの体操』と『ラジオ体操1、3』があり、毎朝2つ、夕方にもう一つやる。ラジオ体操も毎日、まじめに続けると結構、効果があるそうですよ」

等と話していました。

そして、そして、あるテーブルからのコメント

- 若い会員の加入を促進しましょう。
- 今年は留学生の参加があり、花を添えた。参加する楽しみになります。来年も、次々回も、そうありたい。

また、あるテーブルからは

私たちは、幸いにもイエメンから来られたRuaaとのお話しとなりました。

彼女は、

イエメンの首都のサナアから、2015年に来日され、現在、大阪大学博士課程で学ばれている美女です。

イエメンは国土は、

53万㎡もあり、38万㎡の日本よりはるかに広い国です。

長い海岸線は

1906kmもあるインド洋に面しており、サウジアラビア、オマーンと国境を接している。

海岸線が長いので、漁業は盛んである。

モカコーヒーは有名である。

(日本では有名だが、意外と彼女はみんな知っているという喜んでいて)

本日の暗唱文にあった「シバの女王」は

イエメンから来たとも言われているがという話を確認すると、非常に喜んでおられました。

彼女の眼が大きく綺麗なので

女性陣から「イエメンの女性は皆貴女のように目が大きくて綺麗ですか？」と聞かれると、恥らいながら「皆、目が大きいです。」と答えておられました。

こんな感じで、彼女を中心としたトーキングになりました。

「シバの女王」と聞けば、レーモン・ルフェーブルの演奏を思い出します。

なにやらもの悲しげなそのメロディーとは異なる、今年の中学生英語暗唱文には面食らっています。

そして、また、あるテーブルからは

カンボジアからの留学生、奨学金を得て、神戸大学に学んでいるタバン君
彼と母国<カンボジア>に関わる話題が中心でした。

- 周辺の国々の中で、何処が、一番、強国か？ ⇒ うーん
- 大風は来るか？ ⇒ 来ない
- 地震はあるか？ ⇒ 無い
- 津波の心配は？ ⇒ 無い

カンボジアの国旗には<アンコールワット>が描かれています。
国の宝に、誇らしげでした。

米国生まれの、ドナルド・キーンという日本語学者が居ます。
彼が書いた自叙伝の中に、英国に留学し、更に日本で学ぶための船での旅の途中、
カンボジアに立ち寄り<アンコールワット>を見て、とても感動している記述があるのを思い出しました。
以下に、その部分を紹介します。

*Each of the countries I visited on my journey to Japan was memorable,
but the summit was Cambodia.*

I stayed at the Grand Hotel,

an edifice that in more peaceful times must have accommodated hundreds of guests.

*There were only four guests at the time of my visit--a Belgian with a Russian wife,
a Polish mathematician who taught at Columbia, and myself.*

At first we maintained our distance in the huge dining room,

but before long the barriers of reserve fell and we went everywhere together.

*Travel was in pedicabs --rickshaws pulled by a man on a bicycle--
the typical means of travel throughout Southeast Asia.*

*Angkor Wat, Bayon and the nearby sites constitute what for me
is the most splendid group of buildings in the world.*

The Taj Mahal is perhaps more perfect,

the lonely temples of Pagan in Burma more conducive to reveries,

and the Great Wall of China more evocative of history,

but the combination of architecture and sculptures at Angkor makes it unique.

Chronicles of My Life in the 20th Century

(Autobiographical essays by Donald Keene) より、